

創造的な学習空間の創出に関する調査研究 報告書概要

目的

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善及び「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて、学校施設も柔軟で創造的な学習空間を実現する必要があるため、その空間づくりにおけるポイントや具体的な計画モデルを提案し、各教育委員会等が学習空間づくりを行う際の参考にしてもらうことを目的とする。

質問紙調査

(20校の公立学校を対象)

- ・学校施設に関する基礎情報
- ・学習形態と学習空間の現状と課題について

現地調査

(8校の国公私立学校)

- ・先進的取組を行う学校の学習形態に応じた学習空間の現状と課題について

質問紙調査・現地調査の結果からみえたこと

○学習活動の特徴

- ・学習活動に応じて、集団の規模、教員の役割、空間の活用などが変化
- ・インプットだけでなくアウトプットすることに重きを置いた学習活動
- ・デジタルを有効に機能させた、ビジュアル的な学習活動
- ・学内のみでなく地域との交流・学びなど、時間と空間を超えた学習活動

○学習形態の頻繁で柔軟な変化

- ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向け、教師による一斉指導、グループ学習、個人で学ぶ学習が同時に行われるなど、頻繁かつ柔軟に学習形態が変化するとともに、それぞれの学習形態が相互に学びを補完し合う状況
- ・子供一人一人が自ら学びに向かう学習へと転換（子供中心で学習形態が形成）

学習形態・活動を支える上でみられた学習空間の課題

- ・学習空間の広さ
- ・教室周リスペースの連続性
- ・隣接する部屋等の配置計画
- ・学校用家具の活用・工夫

調査結果から得られた実態と各委員の論考を踏まえ

柔軟で創造的な学習空間づくりの具体的なポイントを各教室種別・目的に応じて整理し、提案（抜粋）

○多様な学習形態・活動の変化に柔軟に対応できる普通教室

- ・机寸法の拡大、自由な配置転換に対応できる教室スペースを確保する
- ・教室の寸法、面積を整備時に拡張する
- ・児童生徒用ロッカー、掃除用具入れ、配膳台等を教室の外に配置する
- ・壁面を確保し、教室の正面性をなくす



教室前に設けたロッカーコーナー
(川口市立高等学校附属中学校)

○多様な学習活動に対応する多目的スペース

- ・教室に連続して学習の場を生み出す
- ・視覚的連続性を持たせる
- ・場を生み出す学校用家具やインフィルを用意する
- ・壁面を確保する
- ・空間に可変性を持たせる
- ・Wi-Fi環境を整える



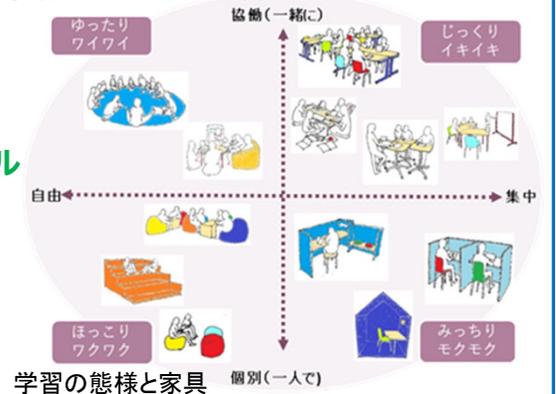
多目的スペースでの協働学習
(福井市至民中学校)

○GIGAスクールを生かす教室・多目的スペースの環境

- ・個人機の机面を大きくする
- ・大型提示装置を用意する
- ・多目的スペースにも投映面を設ける

○学習空間を構成する家具・インフィル

- ・学習環境を構成する基本的な家具（モノ・配置の重要性）
- ・学習環境を豊かにする家具（家具選定の重要性）
- ・空間の骨格を変えるインフィル（柔軟な空間の可変性への対応）



学習の態様と家具 個別(一人で)

※未来の学びを支える環境と校具Vol.3, AKS研究会より

新しい学習空間となり得る学校施設全体の構成の提案

- 学年コモンズによる学習空間モデル
(大きな帰属集団による様々な場所を配置した学習空間ユニットを構成)
- 教科センター方式による学習空間モデル (学びのための環境として特化)

これからの学びを実現するための空間を考えようとする場合の「6つ」のキーワード

- ① コモン/シェア (専有しない)
- ② ダイバーシティ (多様性)
- ③ シームレス (連続性)
- ④ モードチェンジ (時間や場面による空間の変容)
- ⑤ リダンダンシー (冗長性)
- ⑥ ウェルビーイング (心地よさ、五感に優しい)